

浅黄編

第2回

毎回人気を呼ぶ大菊拓朗氏（横浜錦鯉）の錦鯉セミナー。今回のテーマは『浅黄』です。

第2回目は、門兵衛浅黄の仕上がり過程および立て鯉の見方です。

仕上がり過程をみる――

門兵衛浅黄

次は大塚さん（小千谷市小栗山「大塚養鯉場」Ⅱ門兵衛）の浅黄です。逆目の浅黄といって、鱗目が逆に出る浅黄ですね。普通は藍地に白っぽい網目になるんですが、衣や五色みだいに外側に黒っぽい網がはつきり出ている、いわば逆パターンの浅黄です。これによって門兵衛さんはい世を風靡（ふうび）するところとなり、注目の浅黄職人になりました。

門兵衛さんの浅黄の変化を見てみたいと思います（写真⑫）。これが門兵衛さんのところの2才の浅黄です（⑫・A）。2才の春、明け3才の時の姿です。この時だけは門兵衛さんは2才を売ってくれたんですが、それ以降一切売ってくれませんでした（笑）。（会場・笑）

その時にこれが一番いいなと思って求めました。頭の色も綺麗でしたし、奴（やつ）の赤も綺麗でした。背赤も出始めで、少し走りぎみの緋が出ていたんですが、これは良くなるなあと、思ってたんですが、これはいくらもありませんでした。

半年経った姿がこれです（⑫・B）。背赤も非常に綺麗に決まって、そしてこの鯉で一番いいなと思ったのが、頬の緋がすごくシャープなんです。これは一切削ってません

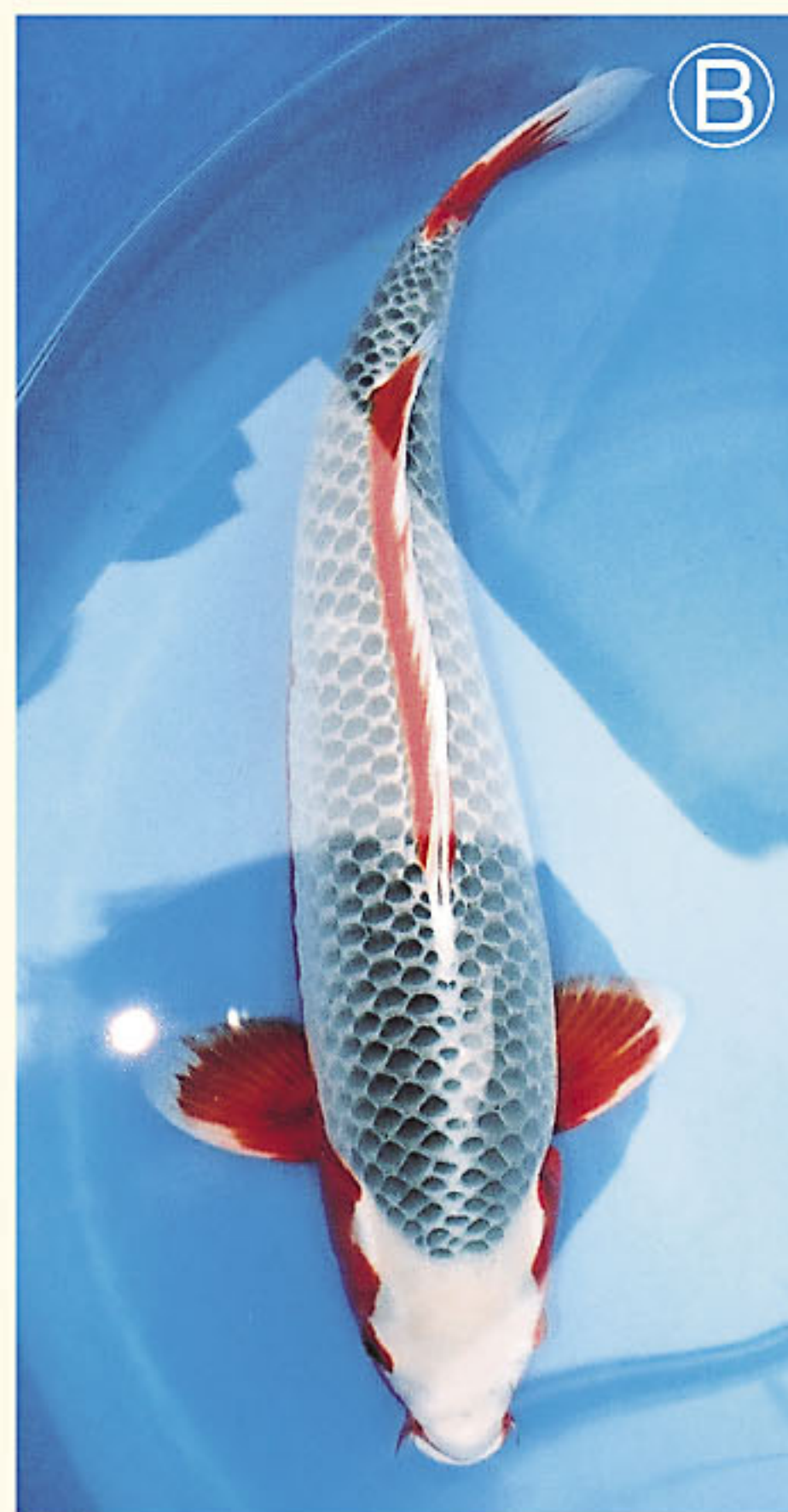
（笑）。（会場・笑）

元赤もかなり濃い派手な色になりました。赤がこうやって綺麗に出た時というのは、大概網目がかなり濃くはつきり出てきます。ちよつと残念だったのが、網目の濃淡が少し強すぎるかなというところですね。2才の時の色の状態で進んでくれれば良かったのかなと思います。

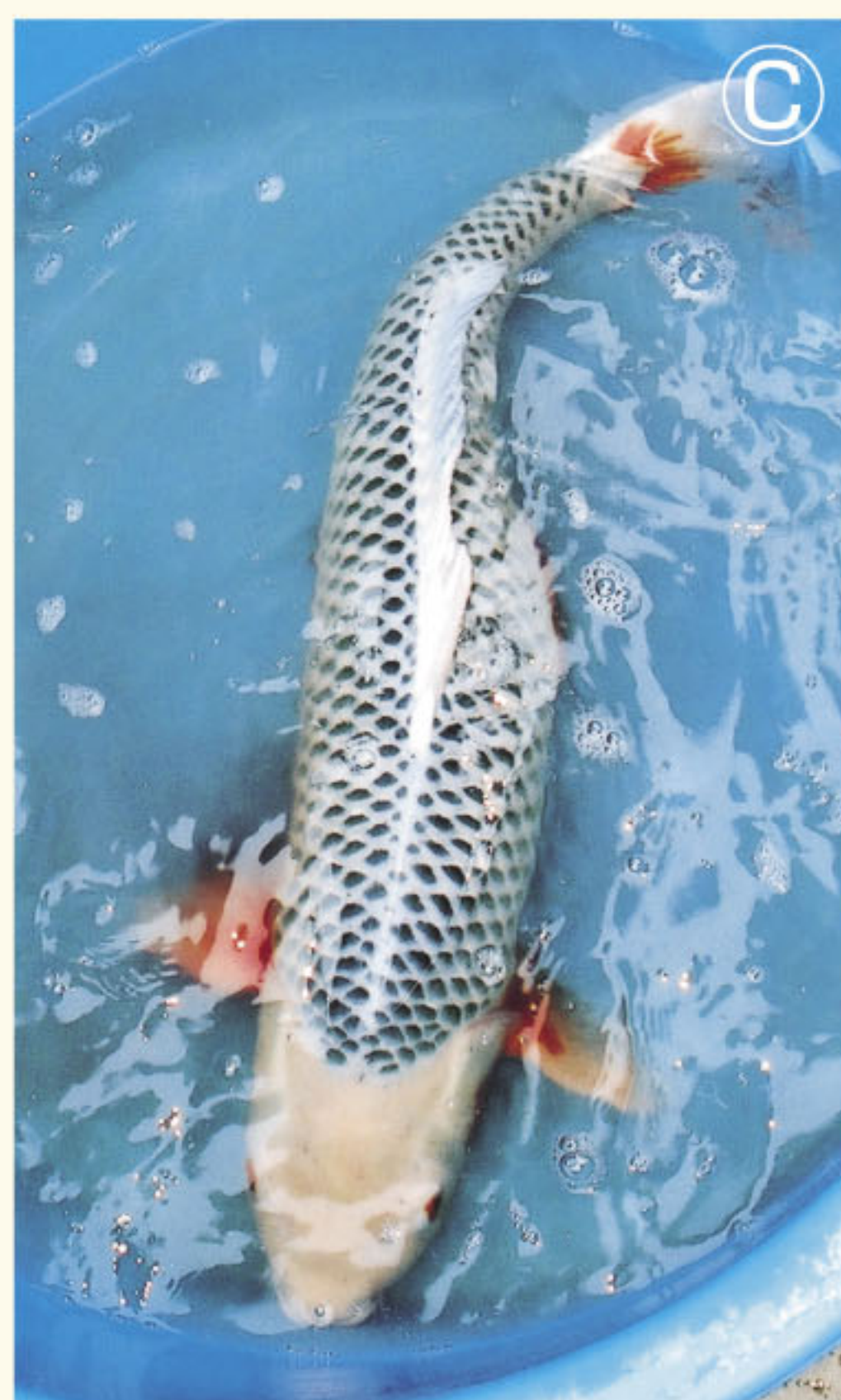
（笑）。（会場・笑）

元赤もかなり濃い派手な色になりました。赤がこうやって綺麗に出た時というのは、大概網目がかなり濃くはつきり出てきます。ちよつと残念だったのが、網目の濃淡が少し強すぎるかなというところですね。2才の時の色の状態で進んでくれれば良かったのかなと思います。

（笑）。（会場・笑）



写真⑫／門兵衛浅黄



写真⑬／門兵衛浅黄

この鯉がおもしろいのは、鱗の端が銀鱗みたいに光るんですね。これは非常に綺麗な浅黄でした。生産者いわく「出世しないだろう」ということで安く売ってくれたんですが、非常に出世してくれました(笑)。

これが半年後の姿です(⑬－B)。

野池で飼いました。鱗の銀が拡散しちゃうかなと思ったんですが、門兵衛ブランドの証で、この銀はかなり残ってくれました。そしてポリウムも付いてきて、お腹が垂れるかなと思ったんですが、全然垂れずにここまで来てくれました。かなりブリッジがしっかりした鯉だなあとします。浅黄では珍しいくらいポリウムが出る鯉でした。

緋が非常に少ないんですが、大きくなると手鰭の元赤が出るのでかなり派手に見える、そういう浅黄でした。

これ(⑬－C)がまた半年経った時の姿です。春に野池に放す時に写した写真ですね。かなり白地がすつきりとして、綺麗な浅黄になりました。泉水でもこのくらいに仕上がる浅黄は珍しいです。

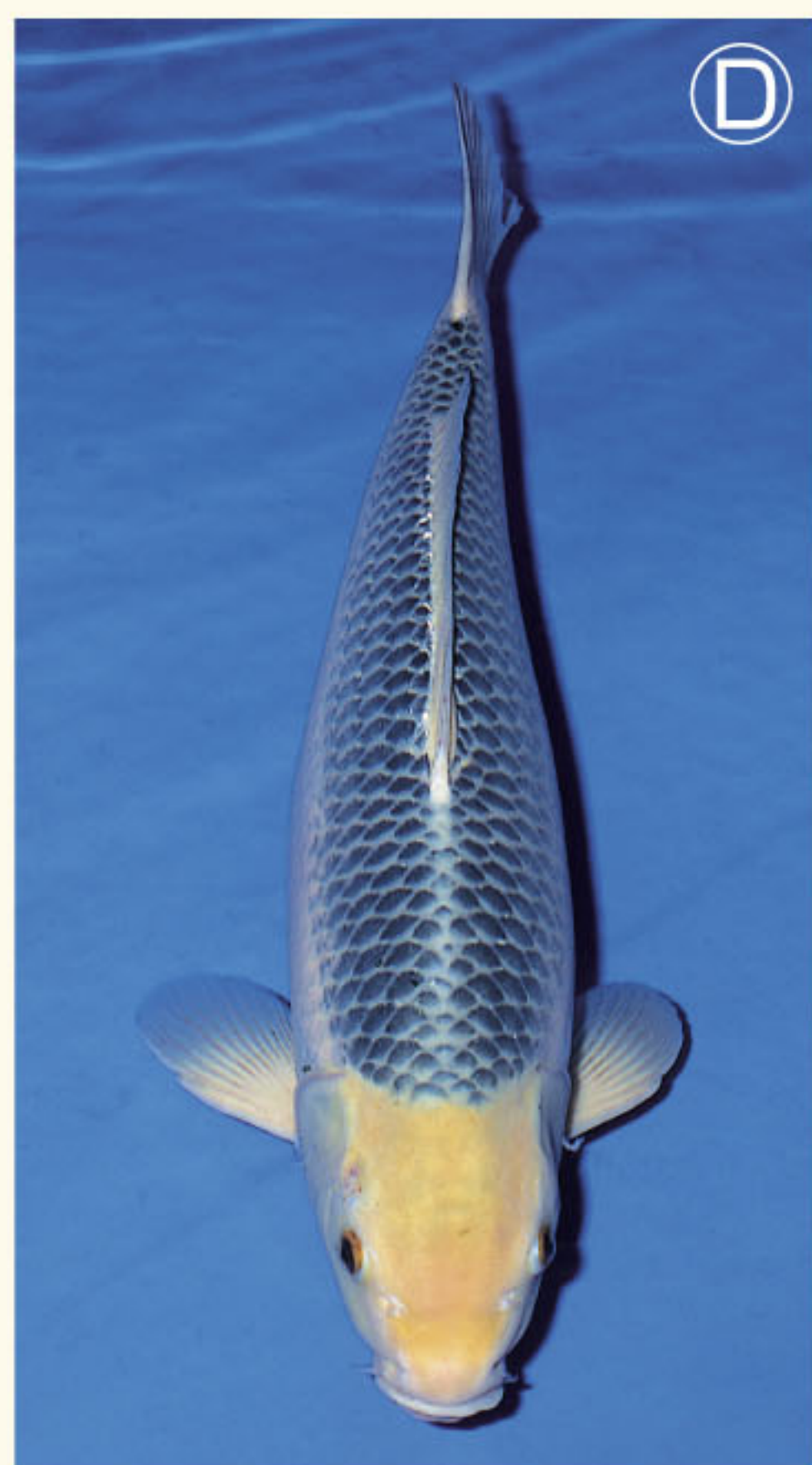
それから、ちょっと写真が悪いです、これ(⑬－D)が野池から揚げた時の写真です。かなり大きくなって80cm近くになって揚がってきました。頭も銀杏色のはっきり出てきて、当時はちよつと白っぽくて、このままで行くと黒くなるかなと思っただんですが、それものなんとか回避することができました。

そして、またこれが(⑬－E)もう1年飼い込んで、育った時の姿で



写真⑭／門兵衛浅黄

写真⑮／門兵衛浅黄



す。これが最後の1枚となってしまいました。 (会場・笑)

非常に綺麗な仕上がりで、目赤が出てきたので、これがいいチャームポイントになって、いい浅黄になるかなと思ったんですが、これも中越地震でお亡くなりになりました。

立て鯉をみる――

門兵衛浅黄

次は門兵衛さんの浅黄の、3才の立て鯉の見方です (写真⑭)。

これは3才の立て鯉ですが (⑭・A)、頭の綺麗さと張りがあって、門兵衛さんには珍しく銀をあまり噛まないタイプの浅黄でした。3才としては体付きも今までにない浅黄だと思って、ちょっと高かったんですが買わせていただきました。

これ (⑭・B) が半年野池に入れて揚がった時の姿です。頭はかなり銀杏色が綺麗に出て、赤がけっこう揚がってきました。そして網目もはっきりと出てきて、4才でこの鯉はやっと背赤が少し出始めたんですね。尾止めの元赤も乗ってきていました。これも残念ながら中越地震で (笑)。 (会場・笑)

次は門兵衛さんの浅黄の当才の見

写真⑬
門兵衛浅黄



方です（写真⑮）。これ（⑮・A）が当才の10〜15cmくらいの時の姿です。2月の写真です。

緋が全然ない浅黄でしたが、頭は「蒙古斑」がちよつとあります。泉水で飼ったので、鱗3列くらいは網が出始めている、そういう浅黄です。これは笠原さんの浅黄ですね。

で、これ（⑮・B）が半年経った時の同じ2本の姿です。1本は目赤が出てきました。もう1本はそのままですが、網がかなりはつきりと出てきた2才時の姿です。

これをもう1年飼い込みまして、このような姿になりました（⑮・C）。これは⑮・Bの下の鯉ですね。60cm、3才です。泉水ですつと飼っておられて、頭もシミが出ずに綺麗

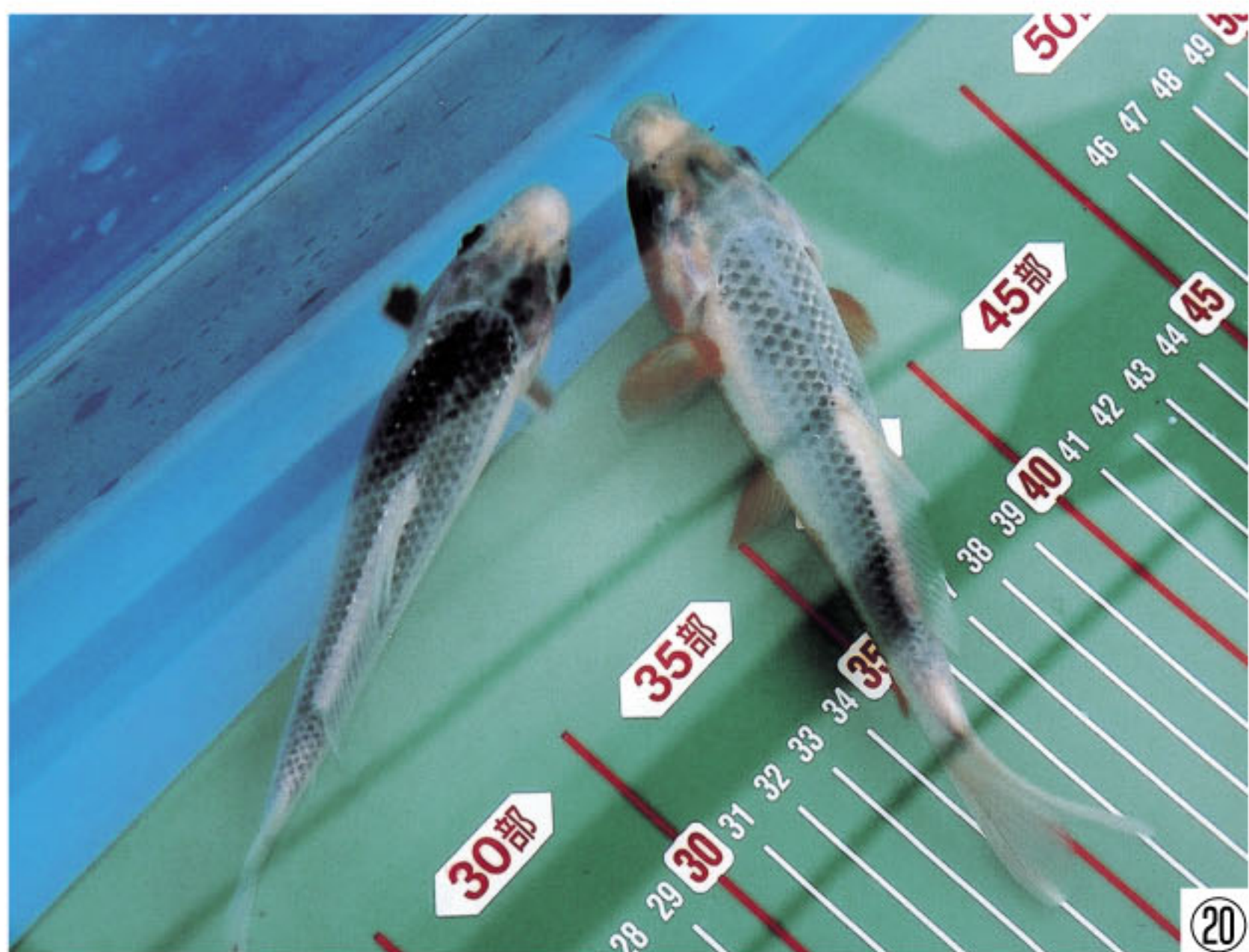
ですね。「水浅黄」で緋がなくても、こうやって網目綺麗に出ると見られる鯉になります。

そしてこれ（⑮・D）が、秋の神奈川県の品評会で種別県一賞を取った時の姿です。この鯉はこれから先、肉が入ってくると、かなり網目も出てきて良くなるんじゃないかなと思

います。（笠原「これは生きています。」）（会場・笑）

次は4才の浅黄です（写真⑯）。

これも上から見ると緋がほとんどない（⑯・A）、さっきの笠原さんの浅黄に似ているかなと思うんですが、これを横から写真を撮りますと：死んだわけじゃなくて、麻酔を掛



けたところですよ。(会場・笑)

横から見ると、こういうふうに見える(16-B)。ここに「側線」といって鯉の耳があるんですが、緋がこの線より下で、ここの緋ギワがしっかりとして一直線になる魚を選んでおけば、立てても緋が昇りにくいといわれています。

ただ、まだちょっとキワは決まっていなくて、少しにじんでいるところもあります、これは大きくなればかなり締まってくるのではないかと……生産者もおっしゃっているの

で、大丈夫だと思います(笑)。これは11月の2週目に、地震が来なければ無事に揚がる予定です(笑)。

次は当才の群泳です(写真17)。これは明け2才で、ゴールドンウィークあたりまで泉水で飼いだむと、チビであつてもこのくらい網目がはっきり出てきます。こういったのが門兵衛さんの浅黄では良くなるのではないかなと見ています。こういったものを育てていくのが一つの楽しみかなと思います。

その中から1本抽出してみます

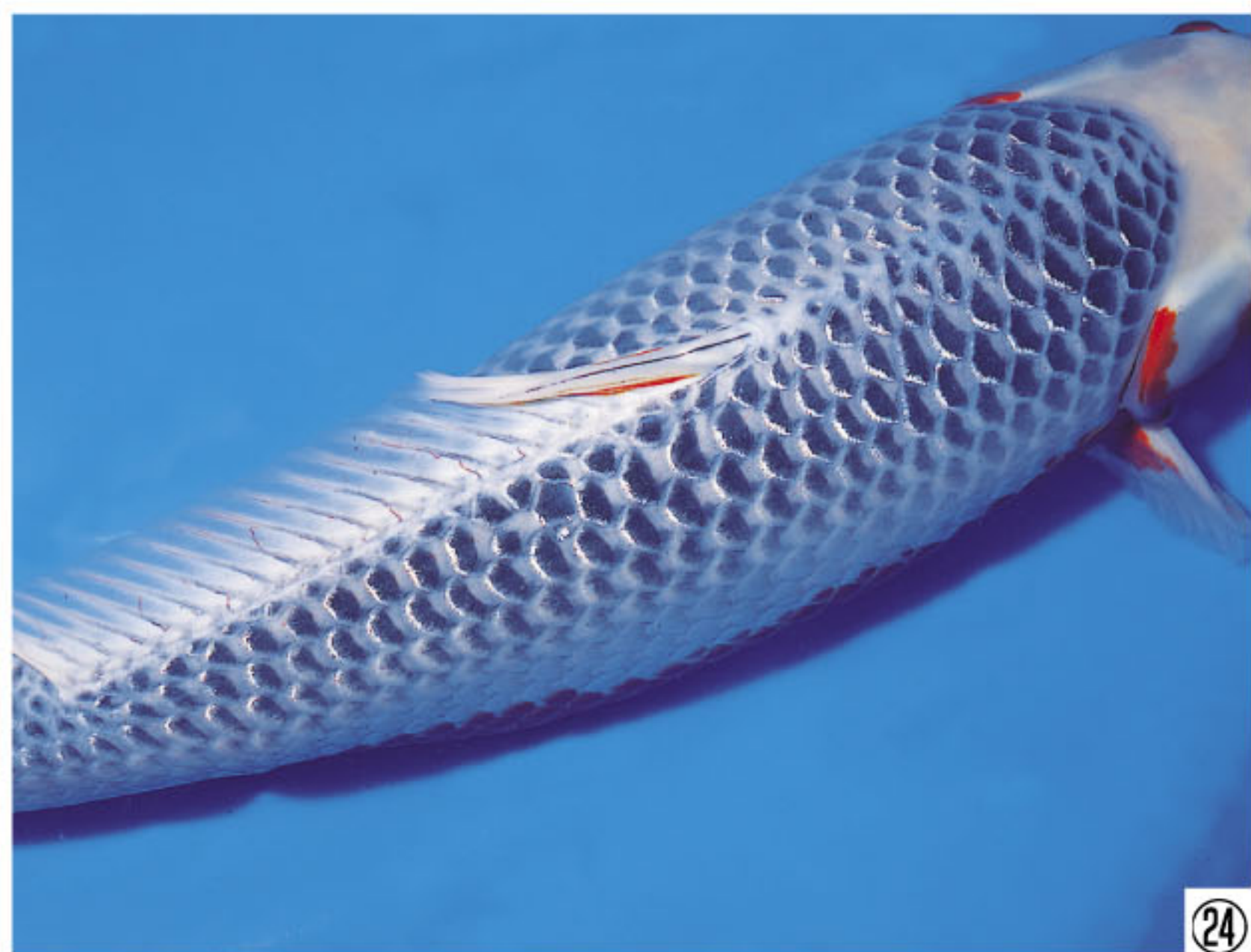
と、これが若鯉品評会で優勝した明け2才の姿です(写真18)。明け2才でもかなり完全に網目が出ている、そういうタイプの鯉です。

ただ、こういう鯉は、当才の時点で緋が側線よりかなり上まで上がっていて、将来的にはさらに昇ってしまうので、立て鯉にはちよつと向かないかもしれません。実際この鯉は今、もうかなり緋が上がってきてしまっています。

これ(写真19)もそうですね。品評会用の、仕上げてすぐ楽しめる浅黄だと思います。で、こちら(写真20)はどちらかというと立て鯉向けの浅黄です。

次は門兵衛さんの浅黄の、今は亡き立て鯉シリーズです。

これは3才の浅黄です(写真21)。これが一つ年上の4才の浅黄です(写真22)。先ほどの浅黄の兄弟鯉で



すね。これらはかなり大きくなったタイプで、門兵衛さんのところでもおもしろい浅黄でした。

これ(写真23)もそうですね。これも骨格が良くて、鼻のところによこつと緋があるんですが、すぐく体付きのいい浅黄です。

そして、門兵衛さんのブランドの印は、ぜひとも鱗の縁の輝きを見ていただきたいと思えます(写真24)。これがないのは門兵衛産ではないといわれるくらい(笑)、門兵衛産の証の輝きとなっています。これが今非常に注目されている一つのチャームポイントです。〈次号につづく〉

